



# 森のなかま

2008年6月号

No. 2 (継続147)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

## 始動！！ 全国植樹祭へ県と連携

平成19年8月に「全国植樹祭」の神奈川大会開催が決定されました。

平成22年春季に開催される予定です。

ご承知の通り、全国植樹祭は豊かな国土の基盤となる森林・緑に対する国民的理解を深めるため、毎年春に実施されてきた国土緑化運動の中心的行事です。61回目にして初めて神奈川で実施される事になりました。

決定通知を受けて以降、県は迅速な対応を見せました。この動きに合わせて「かながわ森林インストラクターの会」も「全国植樹祭への全面協力・全面支援」の方針を示しました。

本年4月に組織改編し「特定非営利活動法人 かながわ森林インストラクターの会」となり、自主・自立を念頭に「活動の継承とさらなる発展」を目指し止まる事なく活動を展開しています。

全国植樹祭については、新生なった我が会としても県と一体感を持ち、協働の精神を持って行動する事的意思を示し、柏倉 紘前会長を担当理事に選任しました。

今後、会員の皆様への周知を図るため平成22年春までに柏倉担当理事より折々の情報を掲載する予定ですのでよろしくお願いいたします。

\* \* \*

植樹祭に向けて(1)

全国植樹祭担当 柏倉 紘

会員の皆さんが全国植樹祭開催に対して共通認識を持ち、一丸となって協力・支援体制を築くために「第61回全国植樹祭基本方針」からその骨子をお知らせします。

### 第1章 開催方針

#### 1 はじめに(全文)

全国植樹祭(第20回大会までは「国土緑化大会」、第21回大会からは現行の「全国植樹祭」が正式名称となっている。)は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、毎年春季に、社団法人国土緑化推進機構と開催都道府県の共催により行う国土緑化運動の中心的行事で、昭和25年以降、持ち回りで開催されており、神奈川県で、平成22年春に「第61回全国植樹祭」が開催することが決定されました。

これまでこの大会では、天皇皇后両陛下にご臨席を賜り、県内外から多くの参加者にお集まりいただき、式典行事や記念植樹などが行われております。

神奈川県での開催は初めてとなりますが、昭和24年に天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、箱根町仙石原で開催した「愛林日植樹行事」が、全国植樹祭の原型を創造する役割を果たしたと言われております。

## 2 開催意義（要点）

- ・ 県の森林の現況説明と県内各地の森林荒廃
- ・ 森林に対する県民の期待と公益的機能
- ・ 花粉症問題と人工林施策の検討
- ・ 「かながわ森林再生50年構想」による森林の抜本的再生の推進
- ・ 50年後の神奈川の森林の新しい姿を県民全体で共有し、協働して取り組む本県の森林再生を、全国に発信しながら、さらに前進させる大きな節目とする

## 3 開催理念（全文）

全国植樹祭の開催を通じて、森林再生に向けた神奈川の取り組みを発信し、全国との交流を図ることにより、本県が目指す森林再生の姿と手法をより一層確実なものにするとともに、県民協働のうねりを高めて、誰もが森林と積極的に関わりを持ち、その恵みを実感できる社会の実現を目指すこととします。

## 4 理念展開イメージ（略）

### 5 大会テーマ「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」

シンボルマークは全国から公募して選定

## 6 開催会場

お手植え・植樹 南足柄市足柄森林公園丸太の森

式典・植樹 県立秦野戸川公園

- ・ サテライト会場（県全体を全国植樹祭のステージとするため）

横浜市・川崎市・横須賀市・小田原市・相模原市・厚木市・海老名市・葉山町・開成町

## 7 開催規模

県内外から参加する招待者、協力者、スタッフ等を含めて、1万人を超える規模の大会

## 8 開催時期

平成22年（2010年）春季

## 9 企業協賛等（略）

（参考）\*お手植え樹種 天皇陛下 ケヤキ・スギ（無花粉）・クヌギ  
皇后陛下 ヤマザクラ・イロハモミジ・シラカシ

\*お手播き樹種 天皇陛下 ブナ・スダジイ  
皇后陛下 コブシ・ヤブツバキ

### 参加者記念植樹

丸太の森・秦野戸川公園共通

アオダモ・アオハダ・アカガシ・イタヤカエデ・イロハモミジ・キハダ・  
クマシデ・ケヤキ・コブシ・コナラ・シラカシ・スダジイ・タブノキ・  
ホオノキ・モミ・ヤブツバキ・ヤブデマリ・ヤマザクラ・ヤマボウシ

秦野戸川公園のみ

アラカシ・スギ（無花粉）・ヒノキ（少花粉）

## かながわの Teppen

## 雷神(いかずちのかみ)様

飯村 武

甘道さんは蛭が岳のオーナーである。その甘道さんの弁はますます熱を帯びてきた。

落雷の話である。雷は天(雲)から地面に落ちるものとばかり思っていたが、地面から天に昇る雷もあるという。

その証拠に1973年8月末のこと、山荘の裏にあるトイレ、このトイレの例のものが稲妻・轟音とともに吹き飛び、同時に篠突く雨。いわば地雷を思わせる光景で、これは雷様が人間のすることに臍を曲げたのだと、甘道さんはにやりとする。

雷と言えばフランクリン(1706-1790年)が頭に浮かぶ。アメリカ合衆国の政治家であり科学者だ。彼は、印刷業などで働き、後には合衆国の憲法制定などの委員も務めた人だが、理化学にも興味を示し、雷雲に風を上げて稲妻の謎を解き、避雷針の考案などで知られる。

時は流れて、今は写真技術が進んだ。我々の肝を震撼させる稲妻、この稲妻の高速撮影による写真の解析研究によると、そのプロセスは概略次のようだ。

雷雲から「先駆放電」と呼ばれる火の玉が落ち始める。この火の玉が何回か落ちて、ついに火の玉が地上に達すると大きな電流の道筋ができて、地上から雲に向かって立ち上がるように大きな電光が走る。これが稲妻だ。ゴロゴロゴロ、ピカッ、ドカーン、ザザーの図式だが、気象学上雷は、熱雷、昇雷、転倒雷(不安定雷)、渦雷の4つに分類されている。

甘道さんを震撼させた地雷とはこの4つのうちのどれか。

ところで、「丹沢」とは朝鮮の古語で「谷深く沢清き山」の意味を持つ。その丹沢の曙は、仏者の入峰から始まる。そのため仏語の山名地名が多い。仏果山、蛭が岳、不動の峰、尊仏山(塔が岳)菩提、弥勒寺など。対する「雷様」は数の上で仏様に大分遠慮した格好だ。

それでも「雷平」「雷ノ峰」「雷神」の3つを探し当てた。雷平は蛭が岳の北東斜面直下(相模原市津久井町鳥屋)早戸川の源流にある。その名が示すように河原となっており、流れにはヤマメの影が濃い。地名の由緒は今のところ不明だが、時として丹沢の雷神様たちが集まって一大イベントを繰り広げる、そんな雰囲気がある。

次に雷ノ峰は大山の南斜面にある頭峰(伊勢原市大山)で、地形図には独立標高点777米とあるが、これもまたそれ相当の由縁があるのだろう。

なお1955(昭和30)年第10回国民体育大会が本県で開催されたとき、大山阿夫利神社下社の東側の位置から雷ノ峰に至る尾根が登山部門のコースとして開かれ、このコースが「雷ノ峰尾根」と名づけられた。

最後は雷神。丹沢の前山であり、顔といわれている大山は雨降山とも呼ばれ、阿夫利神社が鎮座する。祭神は「大山 碓大神」<sup>スミノミコト</sup>、「高麗神」<sup>タカオノミコト</sup>、「雷神」<sup>イカズチノミコト</sup>のお三方で、丹沢がゴロゴロ様の本場・名所と言われる所似はここにある。

当然、盛夏の候ともなれば雷神様の出番で、毎日のように入道雲を湧き立たせて大粒の雨を降らせ、足柄、相模の両平野の稲作を中心とした農産文化を育み、関八州は無理にしても、ときには川崎、横浜あたりまで雲を広げ干天の慈雨をもたらした。しかし、この頃の雷は往時のように元気がない、と甘道さんは言う。ゴロゴロ鳴り出すので、今日こそはと空を見上げるのだが、暫くすると鳴りを潜めてしまう。全く「待惚の肩透雷」だ。

本来、雨は森林を育て、森林もまた雨を育てる間柄にある。そのなかで雷雨は重要な役割を果たしている筈だ。その雷に元気がないのは「育て」の一方を受け持つ自然林や人工林が人為由来の原因で病んでいるからだ。

こんなことから、雷神様が臍を曲げて蛭が岳直下の雷平に隠れ郷に及んでしまった。責任をもって人為由来を償い、挫わるべきところに雷神様に鎮座して貰わないとねー、と、甘道さんはまたまた皮肉っぽくニヤリとするのだった。



(鬼が岩付近より蛭が岳を望む・標高1672.6m)

## 私の認識

## 野鳥その58

高橋恒通

愈々今月はスズメ目カラス科の本丸にせまってお紹介致しましょう。

世間一般では“カラス”と呼んで、童謡などでも歌詞に出て来ますが、カラスと呼ばれてその辺で普通に見られる黒色の野鳥は、ハシボソガラスかハシブトガラスのどちらかです、“カラス”と言う野鳥は居りません。

では、先ず留鳥或いは旅鳥のハシボソガラスの（漢和名：嘴細鴉：嘴細鳥、英名：Carrion Crow）体長L=50cm、から参りましょう。

世界地図上でのハシボソカガラスの棲息分布は、北半球の北緯25°～50°までのユーラシア大陸全域となっております。我国では北海道から九州まで何処でも棲息してまして、海岸、市街地、農耕地、里山など何処でも普通に見られる野鳥です。同色、全身黒色、嘴から足の爪まで全て黒、但し、羽は光の当たる角度によって紫色っぽい、或いは青っぽい光沢があります。繁殖期以外は通常群れで行動します。名前の根拠となった嘴は細目で、額から嘴にかけて平坦な点がハシブトガラスと区別できる点のひとつです。そして、鳴き声とその仕草にハシブトガラスすとの違いがあります。鳴き声は、“ガアガア”としわがれた大きな声です。そして啼く時の仕草が顔を前に出して、上下にお辞儀する様に見えます。

これも亦、ハシブトガラスとの区別点です。

従って電線等に止まって泣く姿をシルエットで見ても判別可能と私は認識しております



ハシボソガラス

雑食性で地上でよく採食し、昆虫、草木の実、動物の死体、残飯等いろいろ食べます。餌を物陰に隠す貯食行動もするそうです。夜間は集団で竹藪などの茂みをねぐらとして、早朝に採食場所へ分散出勤し日中を過ごすのが日課みたいです。

所で、英名の“Carrion Crow”の“Carrion”とは“腐った肉”の意味です。此の英名に就いて、私には首肯できる経験がありますので披露致します。

ご参考に供して下さい。私が愛媛県西条市福武<sup>ふくとけ</sup>と言う山村で中学時代を過ごしました。昭和25～26年頃の中学生の時、八堂山<sup>ハチドウヤマ</sup>と称する裏山の赤松の枝にカラスの巣がありました。親鳥が盛んに給餌している可成り成長した3羽の雛が居ました。

その雛を飼って育てたくて、巣から獲って来る試しをしたのでした。先輩たちは、「親鳥から頭と目を突つかねない様に注意しろヨ」と言われたので、防禦の為に水中メガネをかけ、頭には野球帽の上に鍋を被り、把手に荒縄をかけ頸に結び木に登り始めました。途中から早速、親鳥達が鍋に“ガツンガツン”と攻撃を仕掛けてきました。

構わず登って巣に近ずいた時、突然に呼吸が出来なくなる位に、動物の腐った臭気に襲われ、頭にはガツンと激しく当たるし、水中メガネが曇って前が見えなくなるし、息苦しいし、遂に諦めて木から降りたのでした。

思えばあの時のカラスはCarrion Crow、即ちハシボソガラスだったに違いありません。後日談ですが、ヘルメット代に使った鍋は所々に凹みが生じて、中には小さな穴があいてて、母親からひどく叱られました。ハシボソもハシブトも同じだと認識していますが、カラスの嘴攻撃が強い威力を発揮できるのは、嘴が頭骨と一体になった白色の硬い骨を、黒色の薄い被膚でカバーをした構造になっているからなのであります。道端に出してある生ゴミを漁りに来た野良猫がカラスの嘴で突っつかれて“ファー”と発声し乍ら退散する場面を幾度か目撃してありますが、私には痛い程よく理解できます。 <参考資料>

- ・ 野鳥、山溪フィールドブックス4、写真/叶内哲也、解説/浜口哲一、山と溪谷社
- ・ 日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真解説/叶内哲也、分布図・解説協力/安部直哉、解説(音声)/上田秀雄、山と溪谷社



## 山菜を楽しむ

## その3 山歩きのご褒美 モミジイチゴ (S) 有田保彰

旬……私の大好きな言葉のひとつです。

魚介や野菜の最も味の良い季節のことですが、ものの本によると、野菜の場合には、成熟して最も美味しく、また、栄養価も高くなる二週間ほどの時期を旬の盛りというのだそうです。

今、私たちが食べているものは、ほとんどが包装したり、運んだり、売り場に並べたりと、食べるまでにかかり日数がかかっています。

そのために、完熟する前に収穫したものとか、遠距離を運ぶために日数が経ったものもあって、「旬」という言葉の持つキリッとした季節感がやや薄らいでいるような気がします。

逆に冬に夏のもの、夏に冬のが、あたりまえのように手に入るようになりました。私の大好きなカボチャも、国産ものの他に、トンガ、メキシコ、ニュージーランドものなどが、少しづつタイミングをずらしながら輸入され、一年近く食べることができるようになりました。

理想的な「旬の盛りのもの」というと地場の季節の露地ものということになるのですが、山菜料理は、まさにこの条件にピッタリです

山歩きするとき、草や木の実をちょいとつまむのはすごく楽しいものです。イタドリもクワの実もそうでした。他にもキイチゴやクサイチゴ、サルナシやムカゴなど、季節きせつしているいろいろなものを楽しめます。

が、なんと言っても、抜群に美味しいものはモミジイチゴとシロバナノヘビイチゴの二つ。モミジイチゴは、その酸味と甘みのバランスと色と香りが、また、シロバナノヘビイチゴは、その香りと甘さが、数あるイチゴの仲間の中で別格です。

たとえ食べられないとしても、両方とも花がとても美しく、それだけでも注目に値します。

私は、ウメ酒などの甘い酒は苦手なのですが、モミジイチゴ酒だけは例外中の例外です。

まずその色。透明感のある深い金色は、さまざまな器に合いますが、ワイングラスに注いで、窓越しの柔らかな光に翳して見たときの色は、まさに芸術品です。

次に香り。上品ですが、しっかりと主張する。



(画 有田保彰)

そして味。ほどよい甘さとほどよい酸味が、それぞれ相手を引き立てているこのバランスの妙には、めったに出会えるものではありません。

困ったことに、ひとつ問題があるのです。いざ酒に漬けるとなると、かなりたくさん採らないといけません。夢中になって、刺で何回も痛い思いをしながら摘んでも、なかなか欲しい量になりません。それに、つい素晴らしい色と美味しさの誘惑に負けて、摘みながらときどき口に放り込んでしまいます。

もうずいぶん前の6月、表丹沢の葛葉川で、見よう見まねで、沢登りを楽しんだことがありました。源頭の草付きにとっついていいるときの緊張感と、手元と足元しか見ていないミクロの世界。ようやく尾根筋に出てほっとしたときの開放感と、谷の向こう側や尾根の連なる先々をゆっくり眺めたマクロの世界。緊張感と開放感、ミクロとマクロ。これら二つのコントラストはとても印象的でした。

そのときの気温、水温、水の音などの触覚や聴覚は、残念ながら、もう感覚として思い出せませんが、あちこちに咲いていたヤマボウシのオフホワイトの視覚と、なんとも美味しかったモミジイチゴの旬の味覚は、今でも生きいきと私の目と口に残っています。

山歩きの素晴らしいご褒美でした。

(つづく)

## グッズマイスター2年間のまとめ

グッズマイスター（GM）制度はこの2年間、順調に成長しているように思います。これは会員の皆様のご協力によるもので、深く感謝しており、改めてお礼を申し上げます。

1年目は12名と1チーム+2名の方に追加発注を依頼して、15回の認定となりました。

（売上：¥199.200、在庫：¥143.750）

2年目は14名と1チーム+3名の方に追加発注を依頼して、18回の認定となりました。

（売上：¥472.850、在庫：¥185.950）

作品を入荷数量の多い順にご紹介します。

書けない鉛筆 2.900個    ミニ下駄 900個    無患子の実の根付 530個    帽子飾り 500個    葉っぱの栞 320個    炭地蔵 260個    名札 140個  
 ドングリ刺ガ- 120個    葉っぱのコースター 100個  
 パチコ(ワットワ)100個  
 以上がベストテンです。

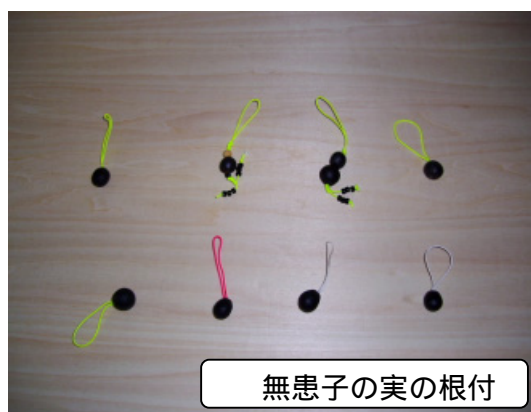
書けない鉛筆とミニ下駄は別格で定番の作品ですが、その他の作品はユニークでGM制度を盛り上げてくれました。これらの作品は街頭キャンペーン等の景品として採用され、売上増につながりました。急な注文もあり、少なくとも、3品種100個単位で在庫を持つ必要性を感じます。現在は在庫を確保していますので、ぜひご用命していただければ、と思っています。

この2年間で感じたことは、作品を作っている手間を考えれば、販売価格が安いように思ったことです。しかし、卸売りの販売できること、森づくりに関わっている人達への販売ということで、あまり利益ばかりを追求出来にくい面もあります。この辺をご理解いただいて、今後ともよろしくお願い致します。

なお、本制度にご意見などがございましたら、どしどしとお寄せください。皆さまのご協力により、さらに充実した制度にしたいと思っております。

（GM事務局：米本 力）

### 景品用グッズの一部



## 活動短信

## 久田緑地管理ボランティア体験会

- 日 平成20年3月29日(土)  
 場 大和市上和田地内「久田緑地」  
 参 かながわトラストみどり財団の会員・スタッフ計32名  
 イ 柏倉 (リーダー)、島岡、森本  
 公 豊丸さん

トラスト会員向けの通常の自然観察会でなく、緑地の手入れなど森林施業の一端を体験してもらう新企画。当地は、昭和63年に「かながわのナショナル・トラスト第2号緑地」として指定。午前はコナラ、クヌギ計150本の植栽、午後はモウソウ竹林の竹伐を行った。地元の「久田緑地くらぶ」の応援もあり、最後には、緑地全体のご案内やしだれ桜の鑑賞と、内容の濃い一日だった。

開発されずに残されてきた境川の斜面緑地への植栽、やがてどんぐりの実がなる林として、地域の人々に愛されることでしょう。ウラシマソウやキツネノカミソリなどの群落もあり、次世代に引き継ぐべき大切な預り物という感を強く持つことが出来ました。

(記 5期 森本)

## こどもの国さくら植樹

- 日 4月28日(月)  
 場 こどもの国  
 参 ビンスタークスノ(株)社員15名、本園管理者3名  
 イ 宮本

この会社は雪印グループの会社で、粉ミルク等主にベビ用品を取扱っている会社のようなのである。予め決められた場所に3年生の八重桜(関山)5本を植樹した。イントロダクションとして、桜の野生種と園芸種(里桜)、里桜“関山”の解説、植え穴の掘り方、植え方、一本支柱の立て方、結え方などの説明を行って、作業に取り掛かった。作業は一時間程度で終了した。作業後、持参した“関山”の桜湯を振舞った。一汗掻いた後であるので、その香りと塩味が喜ばれたようであった。

苗木は、予め公社から連絡を受け予想したものと異なり、根巻きされた樹高約3m、幹径約3cmとかなり大きいので、真竹の支柱で風向を考慮して、幹に対し斜めに交差させ、幹を杉皮で保護してシュロ縄で固定した。

問題点として、現地には園の専門の管理者、補助者が3名立ち会っており、指導には一切、口を挟まなかったものの、果たしてインストラクターを必要としたかどうか疑問に感じた。

(記 4期 宮本)

## 自然観察部会による野鳥観察会

- 日 5月5日(月・祝)  
 場 舞岡公園  
 講 高橋恒通  
 参 森林インストラクター23名

「森のなかま」に毎号「私の認識」と題して野鳥の記事を掲載されておられる高橋恒通氏を講師に迎え、舞岡公園で野鳥観察会が行われた。

葉の展開を最後まで待っていてくれた落葉広葉樹の新葉の色も日一日と濃くなり、山の表情も「笑う」顔から「滴る」表情に変わり、サエズリは聞こえるものの姿は木陰に隠れてなかなか見られず、いらいらさせられた一日でした。それでも、チョットコイ、チョットコイと我々を呼びながら姿を見せないコジュケイに導かれながら、アオゲラ、キビタキを葉陰に観察し、くちばしの下の色により雌雄の識別できるカワセミや繁殖期の羽に変わったコサギはしっかりと観察することができ、21種類の野鳥を観察することができました。

オオルリの姿は勿論ですが、声を聞くこともできなかったことが心残りでしたが、モリアオガエルの卵囊やファゴットで奏するような腹に響く低い声でモーモーと合唱しているウシガエルまで観察することができました。

自然観察会というと植物の説明に偏りがちになりますが、森林インストラクターとしては生態系の中の生物全てについて理解を深めるために開催された野鳥観察会に、ゴールデンウィークの最中にもかかわらず23名もの参加があり、それなりに目的を達することができたと思います。参加ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

(記 8期 野田)

## 森林文化体験 ~春の山菜を楽しむ~

- 日 4月26日(土)  
 場 県立21世紀の森  
 参 一般参加25名(子供6名含む)  
 主 (株)足柄グリーンサービス  
 イ 島岡(リーダー)大塚、村井

食文化体験は人気のイベントの一つです。

参加者はお子様づれのご家族がメイン、3班に分かれて、出発です!金太郎コースから水辺の森 どんぐりコースを歩き、春の芽吹きに囲まれて、食べられる草や毒草を観察し、ふれあいセンターに到着。下見の時チェックしておいた山菜を朝摘みしたスタッフ達がどんどん揚げてます。昨年好評だった私の手作り“ランチョンマット”と箸入れは今年も大活躍!手打ちそばに+して天麩羅・アオキ、アケビ、イタドリ、竹の子、タラ、ウド、カラスノエンドウ、ハナイカダ、スイバの穂、タンポポ、ミツバ、お浸し・モミジガサ、セリ、ワサビそして口直しに笹茶です。(記 9期 村井)



やどりき水源林  
ミニガイド

5月のトピックス

・25日の午前中は台風なみの雨風でしたが、午後になり嘘のように陽がさしてくると、木々の緑が輝き、さわやかな風に誘われて、60代ぐらいのご夫婦が訪れました。Bコースをご案内、スノキ、ヤブニッケイ、クロモジ、等を五感で楽しませていました。

6月の見所・聞き所

・6月初旬から中旬にかけて各種のウツギの花がまだまだ楽しめそう。濃い黄色が鮮やかなジャケツイバラ(棘には要注意!)も見頃。藪に目を凝らすとハンショウツルもみつけられるかも。沢にはカジカガエルの鳴き声が響いています。オオルリ、ミソサザイも期待できます。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・祝日午後1時より1~2時間程度(冬季休止)

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

\*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(社)かながわ森林づくり公社 県民運動課

Tel 0465-85-1900

●ホームページ：

[http://www.ny.ai.rnet.ne.jp/k\\_sinrin/](http://www.ny.ai.rnet.ne.jp/k_sinrin/)

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

第3回 山の二人展

会場：2008 6/5(木)~11日(水)  
時間：11時~7時(初日2時~/最終日3時まで)会場：緑のギャラリー TEL045-223-2621 横浜市西区みなとみらい2丁目グランモール公園 クロス・パティオ1F・木版画：大谷一良・石彫刻：西巻一彦 ほのぼのとした作品で癒されます。  
主催：お問い合わせアトリエ・ムーブ 045-741-3394

森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 手書き原稿送り先 >

鈴木松弘

〒253-0062

茅ヶ崎市浜見平 16-2-401

Tel/Fax：0467-83-8461

Mail：suzuki-m@tbc.t-com.ne.jp

< メール原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷 6-22-1-420

Tel/Fax：045-476-4112

Mail：murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良 2丁目 10-5

Tel/Fax：045-961-6695

Mail：ik\_forester@jcom.home.ne.jp

【メールCCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野 2-13-7

Tel/Fax：042-796-6011

Mail：morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

編集後記

琴欧州が白鳳に勝った日、運よく国技館でした。相撲の現場雰囲気最高。ただし、終了後の各席は大量の食べ残しが散乱、マナーと飽食にがっかり。(鈴木)

初めての編集、冒険すれば画面は何処?七転八倒、四苦八苦、試行錯誤の連続でこれが世に言う産みの苦しみ、今月号より来月号、何とか進化したいと思う日々なり。(村井)

週末になると雨で活動が予定どおりいきません。雨の日にご一緒した方を見ながら雨男・雨女を探していますが、確定できません。実は私だったりして...。会報別冊の編集はなかなか大変です。(金森)

今年最初の森林づくり活動に参加しました。参加者の顔ぶれも、日本人、中国人、韓国人、それにオランダ人と、森林づくり活動も国際的になりました。(井出)

この2ヶ月間の会務を通じて、自分の非力さがよく分かりました。幸いにして、前向きなメンバーに助けられ、私のPC技術も少しは進歩しているようです。会報への投稿と、派遣事務への応募をよろしく願います。(森本)

まだ、実際の編集のお手伝いは出来ておりませんが、こうした情報発信のお手伝い出来ることは、とても意義のあることだと思います。これから、がんばります。(森)

【お詫び】

紙面の関係で、一部活動報告を来月に回させていただきました。ご了承ください。

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：森本正信

広報部：井出恒夫、鈴木松弘、

村井正孝、金森 巖

森 義徳

ヤマケイ・カルチャークラブ 山岳ライター石丸哲也氏同行		
「花の遠足」その時期ならではの花と軽ハイキングを楽しむバスツアーをご紹介します。		
入笠山とスズラン 日帰り	戦場ヶ原とホザキシモツケ日帰り	北横岳他と夏の花 2日間
出発日：6/19(木) 横浜駅西口天理ビル前 7:30 集合	出発日：7/17(木) 横浜駅西口天理ビル前 7:30 集合	出発日：8/14(木)~ 横浜駅西口天理ビル前 7:30 集合

ご不明な点がございましたら、下記まで気楽にお問合せください。



〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海軍ビル  
Tel:03(3503)1911 [info@alpine-tour.com](mailto:info@alpine-tour.com)  
<http://www.alpine-tour.com>

身近な日本の山旅から世界各地の山岳リゾートや辺境の地までアルパインツアーは自然を愛する方々を地球のデコボコへご案内します。次の山旅は、アルパインツアーで出かけてみませんか。